



市民110名、笑って
春を引き寄せた！

「都の亭こはる」「笑亭真月」
福井の人気落語家の競演

坂井あわら市民自治研究センターは、2月7日に第7回目の講演会を開催しました。今年初の講演会は、1年間を楽しく笑って過ごせるようなものにしたと「新春お笑い寄席」を行いました。

会場である「いねす」は、別の団体が展示会をやっているため人の出入りが多くなっています。私たちの会場に沢山人が来てくれるか心配していました。午後1時過ぎにはポツポツとお客さんが集まり始め、2時間前には満席になってしまいました。何と110名の皆さんがおいで頂きました。

最初は、都の亭こはる師匠の出番です。太鼓のお囃子と共に高座に上がり、軽快な調子でお話しが始まり、会場のあちこちから笑い声が聞こえてきます。こはる師匠は、第6回ちりとてちん杯で優勝された方です。

続いて高座に上がった方は、葵亭真月師匠です。若干29歳の背が高く、男前、お話の中に引き込まれていきます。約30分ぐらいでしたが、私たちが江戸時代にいるような気がしたくらいです。会場の皆さんも吐息を殺してお話しに引き込まれています。終わると同時に盛大な拍手と歓声でした。



さかい落語会

この会の良さは、これでは終わりません。坂井市教育長さんが、聞き手として都の亭こはる師匠に「ご家族の方は、どのように言われていますか」などと対談の時間を設けました。落語は聞けても

噺家（アマチュア）さん本人と落語と出会ったいきさつや練習方法など聞けることは、あまりないと思います。20分ほどの時間でしたが、会場からも「頑張つて」とか「そうなんだ」との声が聞こえる和やかな会になりました。

第23回定期総会
政策研究会の設置
など決める

会員拡大と、
奥越自治研センター
設立支援なども確認

2月17日、福井県地方自治研究センターの第23回定期総会が越前市の「サンドーム福井」で約80名が参加して開かれました。

総会では、14年度の活動経過と15年度の活動方針などが審議されました。新方針の中では新たに政策研究会の設置や、団体と個人会員の拡大、あわせて、前年から継続中の福井地区と奥越地区での地域自治研センターの設立に向けての取り組みと支援も確認されました。また、質疑の中では「県自治

研センターと県平和センターとの効果的な連携での運動、各産別組織、市民団体、大学との協働推進を求める発言があり、その点も含めて新年度活動方針が決定されました。

役員改選では「小林、泉、水上、宮崎」の各理事が退任し、新たに「小川、川崎、橋本、野田」の各氏が選任されました。

なお、総会冒頭には前日に逝去された前理事の福井県立大学教授の小林明子さんのご冥福を祈り黙とうが行われました。

総会後の記念講演は、県立大学教授で県自治研センター理事の吉村臨兵氏から「公契約条例、その現時点の取り組みと関連する議論」をテーマに、公契約条例の基本的な内容、全国の状況、早期制



定の必要性などが分かりやすく示されました。



アースデイ越前2015 今年もにぎやかに開催

丹南自治研センターは

塩釜市の特産販売を継続

い
少しでも、東北支援に役立ちたい

5月10日、今年も越前市今立芸術館で地球のことを考え大事にする環境イベント「アースデイ越前2015」が晴れた青空のもと賑やかに開かれました。

丹南市民自治研究センターは、毎年、会員が実行委員として参加していますが、具体的な取り組みでは3年前から越前市の職

員が応援派遣されている「塩竈市」の特産品販売を続けており、今年も品数を増やしながら参加しました。

また、同じブースでは越前市の女子職員有志による「越前市



まるごとキッチン倶楽部」の皆さんが地元産の野菜の紹介やおいしい料理などで参加しました。

第4回福祉自治研集会 市民とともに

できることがある
子どもの貧困、負の連鎖を
断ち切るために

2015年4月28日、越前市・福祉健康センターにおいて、「第4回福井県福祉自治研集会」が開かれました。市民との協働を視座に、県自治研センター、県社会的

養護施設協議会、県里親会、県社会福祉士会、越前市など総勢21団体の賛同と協働による集会となり、自治労県本部の組合員はもとより、地域で活躍する活動家など多彩なメンバー180名が参加しました。メインテーマは、「子どもの貧困・虐待・排除・孤立・漂流・負の連鎖を断ち切るために、できることがある」。

講演は、読売新聞東京本社調査研究本部の榊原智子主任研究員を講師にお招きしました。国の社会保障制度改革国民会議や子ども・子育て会議の委員としての実績や、新聞記者として取材を重ねてこられた経験から、人口減少や少子化問題を抱える日本に広がる養育困難な現状に触れ、従来の専業主婦家庭を前提に設計された「社会保障制度の歪み」や多様な家族のあり方や働き方により「孤立する子育て」や、一人親や貧困などにより家庭の安定感が失われ港（居場所）が持てず「漂流する子ども」、望まない妊娠や出産に悩む「妊娠葛藤」など、全国的に浮き彫りになっている実態が報告されました。

また、先駆的事例として、フィランソロピーの「ネウボラ」が紹介され、妊娠から切れ目なくワンストップで対応する支援（予防的支

援）の考え方や連帯の仕組みから、「普遍的なサービスをすべての人に支援することで社会全体の質の向上につながる。」「一番困難な子どもたちを救えばみんなが幸せになれる。」と普遍的な子育て政策の理念を話されるなど示唆に富んだ講演となりました。
養育支援の多様化が重要であることを全体で確認し、子育て当事者だけでなく、社会全体（自治体、市民、支援者など）が取り組むべきヒントをつかむことができました。





◎活動の記録 (2014年12月～2015年7月)

- ・12月25日 自治研ふくい58号発行
- ・2月4日 自治研センター 県本部合同幹事会 (自治労県本部会館)
- ・2月17日 自治研センター 第23回定期総会 (サンatorium福井 管理会議室棟研修室)
- ・4月16日 自治研センター 役員会 (自治労県本部会館)
- ・4月28日 福祉自治研集会 (越前市福祉健康センター)
- ・5月18日 自治研ふくい編集委員会 (自治労県本部会館)
- ・5月22日 北信地連自治研推進委員会 (長野市自治労長野県労働会館)
- ・5月25日 県本部 自治研推進委員会 (自治労県本部会館)
- ・6月8日 地域おこし協力隊 取材 (小浜市アトリエにじのわ)
- ・6月18日 職場探訪「美山荘」取材 (美山荘)
- ・7月22日 北信地連自治研推進委員会 (自治労とやま会館)

◎編集後記

「地域おこし協力隊」の取材は、面白さと気づきにあふれた刺激的なものでした。地域の住人と話し、地域の未来を考え、自分がその主体として行動しなければならぬ。言葉にすると、改めて大変なことですが、その担い手である彼女たちは「一様」に「面白さ」を口にしていました。

行政の仕事は、本来「面白い」ものです。業務に追われ、住人に地域に臆病になってしまった役場は、最もやりがいと魅力ある仕事を自ら放棄しているのかもしれない。

「職場探訪」美山荘で働くみなさんは、入所者の方の気持ちに寄り添い、彼らの人生を豊かにするお手伝いをしていました。誰かに寄り添い、助け合う仕事を徹底する皆さんに頭が下がる思いでした。他者の幸せを、自分たちの幸せのように語る彼らから、本当の幸せとやりがいを教えられました。

編集の、音声データ起こしや、あったけの言葉をページ数に合わせて削る作業は、苦しいものですが、経験させてもらったことと得られた出会いなどを、これから活かしていかなければならないですね。

(編集部 出)

◎投稿募集!

「自治研ふくい」では、自治体や地域での面白い取り組み、面白い人たちの情報を探しています。

【自治研 福井】フェイスブックを検索して、情報提供、そしてみんなの【いいね】をお願いします。

ホームページでもURLを掲載しています。自治体の動きや活動、職場での話題など、お気軽に書き込んでください。

福井県地方自治研究センター会員募集

自治研センターの会員を募集しています。ぜひ積極的な加入をお願いします。

個人会員 1年間 2,000円 団体会員 1口 5,000円

●活動内容と会員サービス

1. 当自治研センターが主催する各種講演会、学習会について会員の皆さんにご案内を差し上げます。
2. 会員が集会や講演会をされる場合、講師のご紹介や会場の斡旋を行います。
3. 住民本位の地域政策を策定していくため、課題別の研究会を設け、活動を進めます。
4. 当センターの活動経過や各種情報、研究成果等を掲載する「自治研ふくい」を発刊し、会員にはご自宅へ無料で送付します。

【申込先】 〒910-0836 福井市大和田2丁目517番地
自治労福井県本部内 TEL(0776)57-5800 FAX(0776)57-0690
E-mail:f-jichiken@j-fukui.jp